

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101199		
法人名	医療法人社団 清宮医院		
事業所名	グループホーム 山王の家		
所在地	群馬県前橋市山王町133番地		
自己評価作成日	平成26年10月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>のんびり、ゆっくり、楽しくをモットーにご自分のペースで過ごしていただけるよう取り組んでおります。同法人施設の協力体制の中、医療面でも安心して生活していただいています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所では、人間としての人格を尊重し、のんびり、ゆっくり、楽しく、会話があり、安心感の持てる場となることを目指している。運営母体が併設病院なので、加齢などで心身の変化があっても速やかに対応が出来、職員は病院の設備を利用し、平行棒・階段の昇降運動やホットパック療法等を行い、利用者の機能維持のために日々リハビリに取り組んでいる。また、本人・家族の希望に添ってどこで最期をむかえたいかを考えてもらい、希望があれば看取りの支援をすることを説明しており、希望に添えるところまで対応できるよう努力されている。今年の家族交流会には地域の方を招き、家族の協力も得て、利用者、家族、地域とそれぞれに交流を持つ事ができ、事業所主導で今後も発展させたいと考えている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人としての尊厳を尊重し安心して自分らしい生活を、地域の中で営んでいただくことを理念とし、玄関および事務室に掲示している。出勤時には一読し、理念に沿った支援をしている。	理念は利用者の人格尊重を旨としており、職員はその意識を共有するため出勤時に理念を一読している。管理者は、利用者一人ひとりゆつくりと介護する事が大切と新人に指導し、会議の折に理念を話し合う機会を持っており、実際の介護の場面でも利用者を尊重する態度を示し、言葉以外で伝える姿勢を示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小学校の運動会やお祭りなどの行事に参加させていただいたり、地域ボランティアの慰問時には交流の機会を持っている。また避難訓練や交流会には近隣の方に参加して頂いたり散歩などの機会を作り挨拶や話しかけを行っている。	ホーム前の道を散歩する近隣の方と挨拶を交わすといった日々の交流の他、近隣小学校の運動会や祭りに出向いたり、年1回実施の家族交流会に地域の方やダンスボランティアを招待する等地域との交流を図っている。事業所は日頃から地域からの支援が多いため、今後事業所が地域に役立てることについて、近隣の方に直接伺うことも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生や高校生の職場体験や、ボランティアなどを受け入れ認知症の方と触れ合ってもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で話し合われたことは職員に伝達し、サービスの向上に努めている。会議報告はどなたでも閲覧できるよう、玄関掲示板に貼っている。また課題となったことは次回の会議までに取り組み、その結果を報告している。	会議は、家族、市の職員等の出席者の他、近隣住民代表として2名参加者があり、利用状況、行事運営、事故報告、避難訓練、食中毒、評価結果を話している。会議の雑談から意見が生まれ、室内の乾燥対策や災害時の食品備蓄に活用している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなど電話などで相談したりご指導いただいている。	介護保険課に、他市の方の利用が可能かや、家族と一緒に折の怪我の報告を電話で相談し、窓口には介護保険の更新時に出向いている。運営推進会議での行政に対する様々な質問に対し、不明な点に市担当者が速やかに回答をいただけており、信頼をもって話をすることができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。電子ロックの扉もあるが、職員が見守りをしているので普段は使用していない。	法人で身体拘束は行わないことを決め、身体拘束委員会で事例を報告し合い、ヒヤリ・ハツの内容やベッドの位置の工夫を検討している。新人にはその都度拘束とはなにかを説明し、理解を促している。外部の研修は出席はしにくいですが、内部の研修会では全員が出席し身体拘束をしないケアを確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人施設全体で研修の機会を持ち向上を図っている。また外部の研修にも参加し意識を高めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加させていただき、必要なときには活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくり時間を取り話をしている。老人保健施設の責任者からも説明し、理解・納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の皆様やご家族の気持ちを聞く機会を持つようにしたり、気持ちを察するよう心掛けている。同法人施設の職員と接する事も多く、気持ちを伝える事もある。	主に家族の面会時や自宅に電話連絡の折に、要望や意見をうかがうよう心がけている。今回、個別に多角的に意見を徴収するため家族アンケート(事業所からの説明、食事、入浴、病気等、不満や要望が気軽に言えるか、職員の言葉使い等)の実施をした。また、家族交流会では、おだやかな雰囲気の中会話をすることで家族の日頃の思いを知る機会となった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の会話の中や会議の場でも意見を言い話し合っている。	ケア会議を1~2ヶ月毎に実施し、その中で利用者についての意見の他、勤務内容の相談を受けたり、対応が出来ない事案に関して看護部長に相談をするよう伝えたりしている。管理者は会議や日頃から話し易い雰囲気づくりを心がけ、自ら話しかけるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時々様子を見に来たり話を聞いてもらう事もある。資格取得への配慮もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に研修の案内をし必要な研修に参加する機会を設けている。研修後は復命書を提出し、老健と合同の年2回の研修を兼ねた会議で研修報告することもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで交流の機会を持ち勉強させてもらっている。また電話などでも情報交換を行い支援の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活史やサマリーなどの情報提供書のほか、担当者などから情報を得て介護に反映している。一緒に過ごす時間を増やし気持ちを傾聴するなどして安心していただけるようにしている。まだ代表者や同法人部長なども相談を受け対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時などゆっくり話をする時間を設け、ご希望等を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームだけでなく、法人の施設全体としてサービスを提供している。ご本人、ご家族と相談しながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中で利用者様から教えていただくことはとても多い。一緒に過ごしながらかんがえさせてもらい支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時などに様子をお話しし、ご本人やご家族の気持ちに添えるよう一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力を得ながら、地域の行事に参加されている方もいる。知人の方の訪問もありまた来ていただけるような対応を心掛けています。外出の際は馴染みの場所を通ることもある。	利用者の希望を聞いて、花木センター、ペットショップ、外食、花見に出かけている。車椅子を使われる方が多くなり、外出もやや少なくなっているが、家族の協力で外出や外泊を支援している。また近隣から入居された方は、地域から招待を受け敬老会に参加している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールの席やレクリエーション時の場所なども関係を考えて決めている。また職員は常に利用者様の様子に気を配り対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人としてかかわっており、退所後の相談、ケアも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別に気持ちを聞く機会を作ったり、会話や行動の中から要望を見つけ対応している。	ほとんどの利用者は意思の表出は可能であり、言葉による意思の表出ができる。時には、見当違いな言葉や頑な態度があるが、観察し言葉のつながりがある時を選んで会話をしたり、拒否も一つの意思表示と考え、ささいな行動も利用者の思いの表れと理解し、態度の奥にあるものを振り返り、検討したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様やご家族から情報を得たり、日常の中からも情報を得て対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は常に利用者様の行動に気を配っている。また介護記録や申し送りにて全職員が情報を共有し、状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアカンファレンスを行いご本人やご家族の意向も考えながら検討している。また状態変化時には常に意見交換を行い、それを反映しながら介護計画の作成をしている。	入居時のアセスメントや介護状況(3日間は食事・排泄)を細やかに見て、ケアマネージャーは長期6ヶ月、短期3ヶ月の介護計画を設定し見直しをしている。その後は長期1年、短期3ヶ月の目標を設定し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、1年毎の計画の見直しをしている。状態変化がある時は随時見直しを行い、家族には説明し了解を得ている。	利用者の状態に変化がないように見えることもあるが、家族の希望、利用者の状態の細やかな変化が把握しやすいよう、介護計画の設定期間、モニタリングの頻度の見直しを検討されることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入している。口頭やノートでの申し送りをし情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームだけで対応できない場合などは、老健等のサービスの利用や協力を得ながら個々のニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れや教育機関との交流など老健と一緒にやっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご希望の主治医による往診が行われている。また同法人の医師にも随時対応していただいている。ご希望により通院の支援もさせていただいている。	契約時に希望を聞いており、全員が母体の医師を主治医として、月に2回往診を受け、系列の歯科医の訪問治療も受けている。他病院の受診には、家族の都合が合わなければ職員が同伴している。夜間急変時などは病院の当直医が対応し、老人保健施設の看護師に日々利用者状態の健康相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	老健の看護師に日常的にかかわってもらっている。相談したり指示をもらっている。医師との連携も図ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院と連絡を取り状態を把握するとともに、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化時など、ご家族と連絡を取り医師や看護部長も交え話をしながら、統一した対応を取るようにしている。	契約時に本人・家族の希望に添ってどこで最期をむかえたいかを考えてもらい、希望があれば看取りの支援をすることを説明している。入居後は利用者の身体状態に合わせ、その都度家族・医師・事業所で話し合う方針となっている。医療行為が必要な方を除いて看取りのケアを行う方針であり、家族の希望に添えるところまで対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応については随時話し合い、マニュアルに従って行動するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	グループホーム独自での避難訓練を行っているほか、老健と合同の避難訓練も年2回実施している。また地域の方々に防災協力員をお願いしている。	年2回老人保健施設と合同の避難訓練の内1回は消防署が立会い、夜間想定で利用者と共に、避難方法を確認している。ホーム独自でも訓練を行っており、運営推進会議のメンバーも参加してもらい、夜間の避難を理解してもらった。有事には隣接施設からの応援体制が整えられ、地域の防災協力員には災害時の協力依頼をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状態や歴史を大事にし、丁寧な対応を心掛けている。	理念に謳っているように利用者の人格を尊重することを重要と捉え、利用者とその家族の互いの思い違いの話をじっくり聞いてそれぞれに対応したり、思いを口にしない利用者には気分が良い時を見極めて言葉をかけ、何気ないやりとりから言葉を出さない時間の裏にあるこれまでの思いを受け止めたりして、尊重するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が話しやすい雰囲気作りを心掛けている。また入浴時などは個々とゆっくり向き合える時間で、気持ちを聞かせていただけることも多い。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせる様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の希望に添った援助に努めている。出張理美容サービスはご希望に合わせて利用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や旬の物や食べ物の好みを聞きメニューに取り入れている。調理レクとして一緒に作って楽しむ機会も多くしている。	系列老健の栄養士が献立を作成し、食材会社の食材を使って調理担当職員が昼、夕食を作り、朝は夜勤者が調理している。利用者の希望を取り入れたの麺類や体調により軟食を提供し、調理レクでは巻き寿司、おはぎ、月見団子、うどん作り等が楽しめるような機会にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し個々の食事量を把握している。形態なども個々の希望や状態に合わせてその都度対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っている。見守りや声掛け、援助など個々に応じて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し個々の状態に合わせて援助している。オムツ使用を減らすことやトイレの使用など全員で取り組んでいる。	排泄チェック表を作成し、尿量や立ち上がり機能を把握した上で、その方に合った排泄方法を検討している。また本人の気持ちや意欲を大切に、排泄のサインがあると何回でもトイレに誘導し、利用者の排泄の自立に対する満足感や安心感が持てるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に気を付け牛乳やヨーグルトなども食事の中に取り入れている。リハビリやレクリエーションで身体を動かす機会も作っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回お誘いしているが、個々の希望や状態に合わせて臨機応変に対応している。希望されない時は様子を見てお誘いしているが、無理強いのない対応をしている。	毎日午後の時間帯に、平均3名入浴ができるよう支援している。拒否のある方には言葉かけを工夫し、入浴を強く希望される方には、前日に続き入浴できるよう考え対応している。介護者が最初から最後まで一人で介助し、利用者と一緒に話をしたり、家族差し入れのゆずを湯船に浮かべたりして、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースや状態に応じて声掛けをしたり休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに薬剤情報がはさんであり、すぐ確認できるようになっている。医師、看護師、薬剤師にも情報をもらい共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出(散歩も)・外食を楽しみとする声が多く機会を増やしている。また裁縫などを得意とする方への働き掛けや、洗濯物たたみ等は日課となり頼りにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者様の希望も聞きながら外食、ドライブなど行っている。気候の良い日は日光浴や散歩に出かけている。またご家族との外出はいつでも出かけられるよう支援している。	好天日には隣地の庭の桜を眺めたり、近隣の道を散歩したりしている。ドライブを年に数回計画し、利用者の希望をきいて高崎の観音山や花木センター、馴染みの店で外食する機会をもっている。家族と一緒に外出、外泊をする方もおり、日常生活で困る事のないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持している方は把握し見守っている。ご家族とも連携を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を預かりご家族にお渡しするなどご希望に添う支援をしている。事務所の電話も使用していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や作品を飾ったりしている。清潔を保ち居心地良く過ごしていただけるよう気を付けている。	居間兼食堂には、季節の貼り絵や利用者の習字の作品が飾られている。居間の脇のキッチンからご飯の炊ける匂いやまな板の野菜を刻む音を耳に生活感や季節感のある風景があり、トイレや浴室まで暖房を設置して温度・湿度に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下にソファが置いてあり、好きなように利用していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭から馴染みの物を持ってきている方も多い。居室は好きなように使用していただいております。ご本人やご家族と相談し使いやすい配置を考えている。	居室には、タンス、テレビ、花等が持ち込まれ、家族の写真、慶祝状、カレンダー等が壁に飾られている。趣味の編物、筆やペンに便箋等により、本人の生活スタイルに合わせ居心地よく過ごせるよう配置したり工夫したりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレに花札を利用しわかりやすくなっている。廊下は手すりがあり広く作られている。見守りや付添で安全確保に努めている。		